

## 第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

## 一般講演Ⅲ

座長： 昭和大学 小川 良雄

## 14. 超高齢認知症患者の術後せん妄における漢方薬の使用経験

熊本大学大学院生命科学研究部 泌尿器科分野<sup>1)</sup>  
久留米大学医療センター 先進漢方治療センター<sup>2)</sup>  
・ 久留米大学医学部 泌尿器科講座<sup>3)</sup>

○黒川 慎一郎<sup>1)2)</sup>、薬師寺 和昭<sup>2)</sup>、坂田 雅弘<sup>2)</sup>  
沈 龍佑<sup>2)</sup>、亀尾 順子<sup>2)</sup>、駒井 幹<sup>2)</sup>、清川 千枝<sup>2)</sup>  
井川 掌<sup>3)</sup>、八木 実<sup>2)</sup>、神波 大己<sup>1)</sup>、恵紙 英昭<sup>2)</sup>

高齢者人口の伸びと共に認知症患者は増加の一途を辿っており、平均寿命を超えた超高齢者患者も、手術を受ける機会が増えている。

術後せん妄は、高齢者に発症しやすく高齢者人口の増加に伴い増加傾向にある。

今回、膀胱癌の超高齢認知症患者に対して、入院時よりBPSD（認知症の行動・心理症状）の改善のため抑肝散を投与し、昏睡状態に陥った症例を経験したので報告する。

【症例】90才女性。肉眼的血尿を主訴に近医受診され、腹部超音波検査、CT、MRI検査で膀胱癌筋層浸潤疑いあり、精査加療目的に当科紹介となった。

入院時より精神状態不安定であり、長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）12点と認知症の疑いを認めた。術前よりBPSDの予防のため抑肝散（TJ-54）（2.5g）2包2×食直前開始した。入院直後、術直後も見当意識障害、認知機能低下は認めるものの点滴、尿道BLを扱う不穏動作は認めなかった。

術後2日目夜間より傾眠傾向出現し、意識レベル（JCS-20）、神経学的所見には異常認めなかった。頭部CT検査施行するも明らかな異常所見認めず、バイタル変動認めなかったため経過観察を行った。夕方より意識レベル（JCS-0）で覚醒し、会話、食事摂取可能となった。

抑肝散は、術後せん妄や認知症患者のBPSDを改善させる報告があり、近年BPSDの薬物療法のなかでも効果を認めており、忍容性も良好であることから当院でも広く用いられている。しかしながら、超高齢者認知症患者の使用時に昏睡状態に陥った症例の報告は認めていない。今回、超高齢認知症患者に抑肝散を使用し、術後昏睡状態に陥った症例を経験したので文献的な考察をつけて報告する。